

新人看護師到達目標年間パス

1. 基本的な看護技術をマニュアルに沿って、安全・確実に実践できる 2. メンバーシップを発揮し、支援のもとに看護過程の展開ができる 3. 社会人、専門職業人としての基本的態度を身につけることができる

	4月	5月 マンツーマン期間(見学→見守り→実施)	6月	7月	8月	9月 フォローアップ期間	10月	11月	12月 フォローアップ期間(夜勤含む)	1~2月	3月
到達目標	1. 社会人としての接遇を身につけることができる 2. 病棟の雰囲気になれることができる 3. 基本的な疾患について自己学習ができる 4. 報告・連絡・相談ができる	1. 日勤業務が分かる ① 基本的な療養上の生活援助が理解できる ② 支援のもと実施できる 2. 病棟の主治医の基本的な知識を得ることができる 2. 感染対策・医療安全について理解することができる	1. 日勤業務が支援のもとできる ① 基本的な療養上の生活援助が一人でできる ② 複数人の患者を受け持つことができる ③ 診療の補助が支援のもとできる 2. 入院から退院までの一連の流れを理解することができる 3. 指導者とともに3ヶ月の振り返りができる	1. 日勤業務が1人でできる ① 受け持ち患者の優先順位を考えた日の業務を組み立てることができる 2. 看護過程の展開が支援のもとできる 3. 入院・転棟の対応が1人でできる 4. 他職種業務(看護補助者)を体験し、業務内容を理解することができる	1. 担当看護師として患者を受け持つことができる 2. 看護過程の展開が支援のもとできる 3. 入院・転棟の対応が1人でできる 4. 他職種業務(看護補助者)を体験し、業務内容を理解することができる	1. 長日勤業務の流れが理解できる 2. 重症患者を支援のもと受け持つ(急性期における専門的治療を要する重症患者と看取りの患者を含む) 3. 急変時の対応(日勤帯)が支援のもとできる 4. 指導者とともに6か月の振り返りができる	1. 長日勤業務が1人でできる 2. 夜勤業務の流れが理解できる 3. 入院・夜勤の業務を支援を受けながら実施できる 4. 長日夜勤時の急変時の看護について理解することができる	1. 夜勤業務が1人でできる 1. メンバーシップを発揮できる 2. 支援のもと、他部門との連携が図れる	1. リーダーの役割が理解できる 2. 看護技術の習得の振り返りができる 3. 看護過程の展開ができる 4. 集合研修で他部署体験し、他部署の看護を理解することができる	1. 1年間の振り返りができる 2. 1年間の振り返りレポートを支援のもとまとめることができる 3. 2年目に向けて自己目標の設定ができる	
行動目標	1. 社会人として責任ある態度をとることができる 2. 職場の規律を理解し守ることができる ① 守秘義務 ② 病棟の職員として自覚が持てる 3. 自己学習及び自己研鑽の必要性と方法を知らなければならない 4. 指導を受けながら看護技術を体験する 5. 報連相が指導のもとできる	1. 指導を受けながら日勤業務ができる ① 支援のもと日勤業務が実施できる ② 支援のもと療養上の生活援助ができる ③ 指導を受けながらマニュアルに基づいた看護記録ができる ④ 支援のもと検査出しが行える ⑤ 患者の目的のスケジューリングがわかる ⑥ 感染対策・医療安全に基づいた行動がとれる ⑦ シンデントレポートが支援のもと記入できる ⑧ スタッフや患者とコミュニケーションができる 3. 他スタッフや患者とコミュニケーションがとれる	1. 日勤業務を理解する ① 病棟の1日の流れを理解し、率先して動くことができる ② 勤務帯での自分の役割を指導を受けながら理解することができる ③ 受け持ち(複数部署)ができる ④ 患者の目的のスケジューリングを把握し、必要な援助をすることができる ⑤ 受け持ち患者さんの情報を収集し、必要な看護を提供することができる ⑥ マニュアルに沿った看護技術(点滴・吸引など)を一人で準備・実践することができる ⑦ 主体的に報告・連絡・相談(患者さんへの急変時・申し送り時)をすることができる ⑧ 病棟対策について考えることができる ⑨ 時差勤務が1人でできる 3. 指導者とともに3ヶ月の振り返りができる	1. 日勤業務を理解する ① 頻度が高い基本的看護技術を習得できる ② 複数人の受け持ち患者の優先順位をつかえて行動できる(時間管理ができる) ③ 点滴を一人でルート確保・投与・管理することができる ④ 入院時・転棟時の対応ができる ⑤ 支援のもと、入院を受けることができる ⑥ 転棟転入時の対応が支援のもとできる	1. 看護計画立案・実施・評価が支援のもとできる ① 受け持ち看護師の役割を理解することができる ② 指導者とともに受け持ち患者の看護が展開できる 2. 入院・転棟時の対応が1で行える ① 入院時・転棟時に行うべきことがわかり 2. 入院・転棟時のカンファレンスが 3. 看護補助者業務を体験し、看護補助者業務が理解できる ① 吸引筒の取り付けが1人でできる	1. 病棟の長日勤業務の流れを理解し、実践することができる ① 長日中の必要な看護を理解し、実施することができる ② 報告連絡を徹底することができる ③ 緊急時の報告や対応を理解することができる 2. 重症患者を支援を受けながら受け持つことができる ① 入院時・転棟時の対応が理解できる ② 重症患者の観察項目がわかる ③ 家族への関わりが理解できる ④ 緊急時の対応の流れを理解する ⑤ 支援のもと緊急指示を受けて対応することができる ⑥ 緊急時や状況の急激な変化に遭遇した時の連絡方法がわかる	1. 長日勤・夜勤業務が理解できる ① 病棟の長日・夜勤の流れを理解し、実践することができる ② 夜勤中の必要な看護を理解し、看護することができる ③ 夜勤中の報告連相を徹底することができる ④ 夜勤中の緊急時の報告や対応を理解することができる ⑤ 夜勤中の緊急時の報告や対応を理解することができる ⑥ 支援のもと緊急指示を受けて対応することができる ⑦ 夜勤時の緊急時や状況の急激な変化に遭遇した時の連絡方法がわかる	1. 夜勤を1人立ちすることができる ① 自分だけでなく自チームの他スタッフの現状がわかる ② 夜勤中の必要な看護を理解し、看護することができる ③ 夜勤中の報告連相を徹底することができる ④ 夜勤中の緊急時の報告や対応を理解することができる ⑤ 支援のもと、他部門とのコミュニケーションが図れる ⑥ 他部門の役割が理解できる ⑦ ケアカンファレンスや退院指導に参画して問題提起ができる(受け持ち患者)	1. チームリーダーの役割が理解できる ① リーダー業務をシャドウイングすることでリーダー業務を理解することができる 2. 習得した技術を振り返る ① 習得した看護技術において正しく行っているか再確認する ② 未経験や未実施項目を抽出し習得できる 3. 看護過程の展開ができる ① 看護計画立案・実施・評価ができる ② 受け持ち患者の振り返りができる ③ サマリーについて理解できる ④ 退院・中間・振り返りサマリーを支援のもと記載できる	1. 指導者とともに1年の振り返りができる 2. 指導を受けながら1年の振り返りレポートをまとめることができる(看護についての自分の思いを表現する) 3. 2年目に向けて自己目標の設定ができる	
社会人基礎力	□ 電話の対応ができる □ 挨拶ができる □ 時間・期限を守ることができる(提出物を期限内に提出することができる) □ 身だしなみを整えることができる(当院チェックリストを活用) □ 時間に余裕をもって出勤できる □ 報連相の方法が言える(欠勤、遅刻、体調不良時の連絡先も伝えておく) □ 指示されたことや指導されたことはメモしている □ 自分の看護観を述べるることができる	□ 指導に対して返事ができ、わからないことを質問できる □ 毎日の行動を先輩看護師と振り返ることができる □ 挨拶や仕事の準備・片付けを自ら進んでできる □ 仕事をするために必要な物品等の位置を確認し、把握することができる □ 他人の意見を聞くときは目を合わせ相づちをうつことなど聞いている姿勢がとれる □ 休むことなく出勤できる(体調管理ができる) □ 1日のタイムスケジュールを考え実践することができる □ 病歴や言葉遣いは病院・看護部の規律に収まっている	□ 体調管理ができる □ 分からないことを曖昧にしない(先輩に自ら聞く姿勢) □ わからないことは人に聞いたり調べたりマニュアルなどで手順を調べている □ 継続したことのない検査等があれば自ら進んで取り組むことができる □ プリセプターや先輩看護師に心配事やわからないことは相談できる(わからないことをそのままにしない) □ 1日のタイムスケジュールを考え実践することができる	□ 状況に応じてタイムスケジュールの変更修正ができる □ 日報を毎日継続して記載することができる	□ 接遇について自己評価できる						
勤務(目安)	日勤 前半シャドウイング 後半日勤業務をペアで	日勤(～ 人受け持ち) 休日勤務、時差勤務+1	日勤(～ 人受け持ち) 休日勤務、時差勤務1人	日勤1人立ち	担当患者をつける(ペアで)	長日+2回	長日1人立ち 夜勤2回(+1)	夜勤1人立ち			
集合教育 Off-JT	職員研修・オリエンテーション ：接遇、コミュニケーション研修 ：医療安全 ：感染対策 新人研修 医療安全 ：院内感染予防策 ：看護基礎技術(食事介助、口腔ケア、採血、静脈導入、吸引、経管栄養、注射(皮下・筋肉・静脈)、点滴、採血、血糖測定、輸液ポンプ、シリンジポンプ、清潔操作、皮膚排泄ケア(体位交換・オムツ交換・スキンケア)) ：急救救命措置 ：災害時対応	5月 看護過程の展開 (集合とは別に実施)	専門知識 薬品管理 ハイスコア 心電図 12誘導	多重課題	看護過程の展開	救命救命措置 ACLS	リフレッシュ	倫理	看護過程の展開  医療安全 KYT	1年の振り返り	
現場教育 On-JT	□ ベッドメイキング □ 安全な体位の保持 □ 食事援助 □ 清潔ケア □ 口腔ケア □ 入浴介助 □ 車椅子の移動、移送 □ 感染対策 □ 体位変換 □ 洗髪	□ 投薬(内服・点滴・軟膏) □ 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い □ 経管栄養 □ 排便 □ 採血 □ 吸引 □ 静脈導入 □ 検査票記入 □ 心電図モニター □ 酸素吸入 □ 洗髪 □ 12誘導	□ 経管栄養 □ 排便 □ 採血 □ 吸引 □ 内視鏡検査見学 □ 入院手続き □ 検査票 □ ホルター心電図 □ 転棟の手続き □ ドレーンの管理 □ 節分法採尿 □ 尿送留置カテーテル挿入・管理 □ チームメンバーの応援要請	□ 採血 □ CTの説明・介助 □ 採尿 □ 内視鏡検査見学 □ 入院手続き □ 検査票 □ ホルター心電図 □ 転棟の手続き □ ドレーンの管理 □ 節分法採尿 □ 尿送留置カテーテル挿入・管理 □ チームメンバーの応援要請	□ 採血 □ CTの説明・介助 □ 採尿 □ 内視鏡検査見学 □ 入院手続き □ 検査票 □ ホルター心電図 □ 転棟の手続き □ ドレーンの管理 □ 節分法採尿 □ 尿送留置カテーテル挿入・管理 □ チームメンバーの応援要請	□ BLS □ 救命カートの使用方法 □ BIPAP、人工呼吸器の管理 □ 細動脈の取り扱い □ 夜勤に入る前のチェックリスト		ローテーション研修の開始			
スタッフ	①「私たちの仲間」として迎える ② 働きやすい雰囲気作り「気持ち・心配り・心配り」 ③ 新人の役割モデルになる ④ 新人が分かる言葉で伝える ⑤ 新人が理解したか、確認する ⑥ 当たり前のことでも出来たことを認める ⑦ 実点減損(相手のいいところ探し)										
プリセプター	新人看護師にハンドブックの説明を行う 教育総括に基づいて新人指導を進める	ハンドブックをもとに毎月振り返り 目標設定をプリセプターと行う	プリセプター評価表で評価を行う 3か月の振り返り			6か月の振り返り				ローテーション研修の準備を新人看護師に説明	1年の振り返り 次期プリセプターへの引き継ぎ
実地指導者	プリセプターにハンドブックの説明を行う 教育総括に基づいて新人、プリセプターへの指導を行う		プリセプター評価表をもとにプリセプター・新人看護師と面談 3か月の振り返り			6か月の振り返り		プリセプター評価表をもとにプリセプター・新人看護師と面談		ローテーション研修についてプリセプター・新人看護師に説明	プリセプター評価表をもとにプリセプター・新人看護師と面談 1年の振り返り
教育担当者	・病棟に受け込めるように配慮する。 ・新人・プリセプター・実地指導者にも積極的に声をかける。 ・相談窓口となる。 日々の指導者について、連携をとって決定する。 ・プリセプターとの関係を把握する。 ・必要時、新人、プリセプター、実地指導者に状況確認を行う。 ・プリセプターハンドブック時折、確認する。		年間で必要な部署での研修を企画運営する 3か月の振り返り			6か月の振り返り		ローテーション研修の調整	次期プリセプターへ心構えの準備 ハンドブックの説明	1年の振り返り	
評価方法	厚労省技術チェック		厚労省技術チェック 実地指導者技術チェック			厚労省技術チェック 実地指導者技術チェック		実地指導者技術チェック		実地指導者技術チェック	厚労省技術チェック